

第8回-I : 「グローバル・キャンパス創成へ向けた海外拠点の戦略的展開 :

ASEAN ハブセンターの機動的・発展的な有効活用に資する NPO 法人設立のための準備調査」

○研究代表者 総合グローバル学部総合グローバル学科 教授 廣里 恭史

○研究メンバー (教員5名×職員6名)

総合人間科学部 教授/経済学部 准教授/国際教養学部 教授/グローバル教育センター 特任教授/総務局経営企画グループ/SGU 事業推進室/財務局経理グループ/学事局学事センター/学事局グローバル教育推進室

○研究テーマについて

タイのバンコクに設置されている「上智大学 ASEAN ハブセンター」の有効活用にむけて、現行の外部資金予算に拠らない予算基盤の下、持続可能な運営方法の検討が必要となっている。そのため、公益団体や個人の寄付及び採算が取れる事業の実施によって運営可能となるよう法人化を提案する。

法人化によって、タイ政府の方針に沿う形での法的基盤が確立し、事業受託や各種外部資金の獲得への道が開くと同時に、現地に根ざした活動を行うことで社会貢献にも繋げる提案を行いたい。

○研究内容

- ・現地における日本の大学の進出状況、法人登録方法の調査。
- ・法人登録に際しての人員・収支計画等の具体的なシミュレーションの実施。
- ・採算性のある事業・教育プログラムの策定。

第8回-II : 「大学関連映像・音声資料 (AV 資料) のデジタル化を通じた IR の基盤構築と人材育成 (継続)」

○研究代表者 国際教養学部国際教養学科 教授 SAALER SVEN

○研究メンバー (教員3名×職員4名)

文学部 准教授/文学部 特別研究員/総務局広報グループ/学術情報局情報システム室

○研究テーマについて

第7回からの継続研究で、本学の IR 基盤形成の一翼を担うべく、史資料室と総合メディアセンターが所蔵する映像・音声資料のデジタル化をおこない、その作業過程と成果を教育・研究に積極的に活かし、人材育成につなげることを目指している。第7回の成果として映像・音声資料の合計2,400点分の目録化が実現した。その結果、上智大学として歴史的価値が高いもの、学内外の研究者からも強い関心が寄せられるであろう学術的な価値が高いもの、教育に活用できるもの等が多く残されていることがわかった。さらに整理を進め、収集・保管・活用の基盤構築に繋げることを目指す。

○研究内容

- ・史資料室と TV センターが所蔵する映像・音声資料の調査、整理、分類、目録の作成を実施。
- ・デジタル化にふさわしいものを評価、選別、デジタル化の実行。
- ・学内での活用、学生との協働を実施。

第8回-III : 「働きやすい職場づくりの構築」

○研究代表者 六甲学院中学校・高等学校 養護教諭 曾川 笑子

○研究メンバー (教員6名)

六甲学院中学校・高等学校 特別支援教育コーディネーター体育教諭/特別支援教育 数学教諭/特別支援教育 コウンセラー/上智大学総合人間科学部 教授

○研究テーマについて

様々な問題の解決が教員個人の裁量に任されている部分が多く、メリットがある一方でデメリットもある。教員個人の様々な考え方が混在していることにより、対人関係の問題や、対応が困難になることがあり、これまでもカウンセリングやグループワークショップへの参加を勧めるなどの取り組みを行っていたが、時間がなく忙しいことでなかなか参加してもらえないなど、効果が挙げられなかった。

教職員にとって、働きやすい職場とは、円滑で質の高いコミュニケーション、問題解決能力が日常的に見られることと考え、本研究では、自己理解に加え、他者理解、また構成的エンカウンター・グループを通じて協働することを体験し、働きやすい職場作りのきっかけと、効果的な取り組みを検討する。

○研究内容

- ・教職員を対象としたワークショップの実施。

- ・心理検査を活用した効果測定。

第8回-IV：「仕事と子育てを両立しやすい職場環境への提言 ～持続可能なピアサポート体制の構築～」

○研究代表者 総合人間科学部看護学科 助教 稲田 千晴

○研究メンバー (教員5名×職員5名)

総合人間科学部 教授・助手/理工学部 教授・准教授/総務局/総務局経営企画グループ/人事局人事サービスグループ/
学事局入学センター/学事局学事センター

○研究テーマについて

第6回からの継続研究であり、教職員とその家族の健康支援を目的としたセミナーを定期的で開催してきた。その中で、仕事と子育ての両立を成功させるには、普段から、職場内での立場を超えたコミュニケーションが重要であり、互いに家族、特に子どもの健康や発達に関する知識を持つこと、小さな悩みを語り合う場が必要であることが明らかになった。第8回の今回の研究では、子どもや家族の健康をテーマにしたピアサポートプログラムの体制づくりと、効果的な運用とその持続性の方策を明らかにする。

○研究内容

- ・組織や人材を活用した、定期的で継続したセミナーの開催。
- ・セミナーを行うことが職場内のピアサポート体制の構築にもたらす影響を検討。
- ・活動の継続性と情報発信のあり方の検討を仕組みづくりを行う。

第8回-V：「学生指導とハラスメントの境界線の具体化

－学生指導の「ハラスメント防止ガイドライン」作成に向けた研究－

○研究代表者 総務局総務グループ 岩瀬 俊和

○研究メンバー (教員3名×職員6名)

神学部 教授/法学部 教授/理工学部 教授/総務局/総務局総務グループ/人事局人事サービスグループ/学生局学生センター/学生局カウンセリングセンター

○研究テーマについて

ハラスメント防止に向けた対策の一つとして、適正な指導とハラスメントとの境界線を具体化し、学生指導を行う際の指針となる「ハラスメント防止ガイドライン」を定めることが考えられる。ガイドラインは、本学においてもすでに定められているものの、教職員にとって具体的なイメージが持ちづらく、防止策として機能しているとは言い難い。

「適正な指導とハラスメントとの境界線」の明確化が可能かどうか。ハラスメント防止に向けた実効性を高めるためには、ガイドラインにどのような内容が必要か明らかにする。ガイドラインの他に、ハラスメント防止またはハラスメント案件の解決に資する効果的な施策はないか調査する。以上の観点から基礎研究を行う。

○研究内容

- ・他大学のガイドラインとの比較。
- ・ハラスメントに対する意識調査(学生・教職員)を実施。

第8回-VI：「上智大学フューチャー・センタープロジェクト 上智大学内に新しい対話の文化を創り出すための研究 ー新しい対話の文化を創り出す人材育成プログラムの確立ー」

○研究代表者 経済学部経済学科 教授 川西 諭

○研究メンバー (教員3名×職員12名)

地球環境学研究所 教授/言語教育研究センター 講師/ダイバーシティ推進室/総務局経営企画グループ/総務局広報グループ/総務局中等教育事務室/財務局経理グループ/人事局/人事局人事サービスグループ/学事局学事センター/学生局学生センター/学術情報局研究推進センター

○研究テーマについて

2013年にスタートした本研究はこれまでに、フューチャーセッションの有効性と必要性を確かめつつ、大学内においてどのような場所であるべきかについて研究してきた。その後は、学生・教職員からなるボランティア組織である本プロジェクトの持続可能な運営方法についての研究の中心となってきた。

結果、プロジェクトの持続可能な運営方法は、対話の場づくりができる人材の育成。課題発見&課題解決のための対話の場。課題解決アクションの実行。の3つを軸にして活動を進めていくことであると結論づけた。その中で第8回の研究では、対話の場づくりができる人材の育成に力を入れることとした。

○研究内容

- ・主に研究メンバーに対して、定期的に連続したファシリテーション講座を行い、月 2～3 回学びの機会を作る。
- ・参加者の学習意欲を高めるための工夫として、フューチャーセンタープロジェクト独自の認定資格制を導入し、ステップアップしながら学びと経験を積む。
- ・学生 FD サミットへの参加

第 8 回-VII：「AI を活用した業務効率化の可能性 –AI の最適化技術応用による教室配当自動化の試み」

○研究代表者 総務局経営企画グループ 渡邊 英司

○研究メンバー (教員 4 名×職員 6 名)

理工学部 教授・准教授/IR 推進室/総務局経営企画グループ/学事局学事センター/学術情報局研究推進センター

○研究テーマについて

コンピュータの進歩により、従来は人間に向けており機械では難しいと思われていた作業が可能となっている。こうした状況を分析し、知識を共有し、大学業務の効率化を考える。

具体的には、学事センターで行っている教室配当作業において、コンピュータを活用した自動化による業務効率化の可能性について検討および実験を行う。あわせて、大学業務全般へのさらなる機械化の可能性も議論する。

○研究内容

- ・教室配当業務に関わる職員を含め、実施方針・対応方法の検討。
- ・他大学等の先進事例調査。
- ・テストプログラミングでの実証実験。

第 8 回-VIII：「イエズス会ローマ総本部アーカイブズ (ARSI) 所蔵資料の資料調査・収集・目録化」

○研究代表者 神学部神学科 教授 佐久間 勤

○研究メンバー (教員 3 名×職員 4 名)

神学部 教授/文学部 特別研究員/国際教養学部 教授/総務局広報グループ

○研究テーマについて

ローマにあるイエズス会総本部のアーカイブズ (Archivum Romanum Societatis Iesu 以下、ARSI) には、イエズス会神父による本学の創設経緯や創設後の日本での活動記録 (書簡) も多く保管されている。本研究ではこうした ARSI 所蔵資料の資料調査・収集ならびに目録化を中心に行う。

○研究内容

- ・ARSI についての調査、資料請求および収集方法の検討。
- ・資料の点数・言語・構成調査。
- ・表題目録の作成。

第 8 回-IX：「日本で就職した外国人留学生の実態調査」

○研究代表者 言語教育研究センター 講師 坂田 麗子

○研究メンバー (教員 3 名×職員 2 名)

言語教育研究センター 特任准教授/グローバル教育センター 准教授/総務局総務グループ/学事局公開学習センター

○研究テーマについて

2018 年 5 月現在、学部生 1151 名、大学院生 609 名の外国人学生を受け入れている。2017 年度と比較すると 83 名増加しており、大学院生においては、外国人学生が約半数に近い数を占めている。今後も留学生数の増加が見込まれ、その対応も多様化しているが、留学生の所属部署がそれぞれ個別に対応し、その負担や課題について全学的に共有されていない現状がある。

全学的本学の教職員の留学生対応の負担の軽減と対応の全学的な共有を目指し、留学生対応の実態を把握することを目的とする。実際から問題を抽出し、その改善策を見出し、提案する。

○研究内容

- ・大学内や他大学における留学生対応の実例を調査。
- ・教職員の留学生対応の実態・問題点を把握するため、アンケート調査を実施する。
- ・グローバルキャンパスでコミュニケーション力をあげるためのワークショップの開催。

第8回-X：「更年期男女に対する生活の質向上のための研修の効果」

○研究代表者 総合人間科学部看護学科 助手 坪田 明子

○研究メンバー (教員5名×職員2名)

文学部 講師/総合人間科学部 准教授/言語教育研究センター 講師/学術情報局情報システム室/目白聖母キャンパス事務センター

○研究テーマについて

更年期症状が現れやすい40～50代は、仕事や育児、介護などで多忙な年代であり、忙しさに追われ、自分のケアは後回しになってしまう現状がある。また、更年期という言葉は知っていても、正しい知識や対処法を知っているとは限らない。一方、女性だけでなく男性にも更年期があることはあまり知られておらず、男性は心身の不調が更年期によるものであると気づきにくい。

本研究では、更年期男女を対象とし、更年期の不快症状を緩和することを目的とした介入研修（健康教室）を開催する。

○研究内容

- ・更年期に関する介入研修プログラムの作成
- ・介入研修としての健康教室の実施。（基本的な知識の提供、食事やエクササイズ、リラクゼーション、アロマテラピーの紹介等）
- ・介入研修の効果測定。

以上

※研究代表者・メンバーの所属、職名等は研究報告当時のものになります。